



エコ大学総合1位



世界一環境先進大学三重大学の環境への取組

1. 四日市公害から学ぶ「四日市学」
2. ISO14001認証取得
3. 3R活動/環境報告書/社会貢献
環境経営パール大賞・エコ大学ランキング1位
4. 教育GP;三重大ブランドの環境教育/
アジア・太平洋大学環境コンソーシアム
5. COP10 in 三重
6. カーボンフリー大学/ 環境情報科学館
環境曼荼羅・大学の社会的責任 (USR)



朴 恵淑（三重大学理事・副学長;環境・国際担当）

四日市公害の過去・現在・未来



四日市喘息



四日市第二コンビナート

四日市第一コンビナート

四日市第三コンビナート

四日市公害から学ぶ四日市学

四日市公害訴訟判決(1972.7.24)

- ・企業の共同責任、共同不法行為の認定
- ・大気汚染と喘息などの非特異的閉塞性肺疾患の「疫学的因果関係論」の認定

環境政策(総量規制)・最先端の環境技術

- ・公害防止条例の改正(1971年)
- ・全国初の総量規制公布(1972年)
- ・環境技術
- ・四日市イニシアチブ

- (1) 法制度の整備
- (2) 環境政策
- (3) 環境技術
- (4) 企業の環境倫理・社会的責任(CSR)
- (5) 環境ビジネス
- (6) 地域住民の連携・参画
 - ・市民ガバナンス
 - ・持続可能な社会構築
 - ・産学官民の協働型地域づくり
- (7) 人財養成
 - ・持続発展教育(ESD)
 - ・実践的環境教育のツール(四日市学)

→ 三重大学共通教育(2004～現在)
約1,500名が受講(毎年新入生の1/6)
- (8) 認識共同体の構築
 - ・各セクターとのネットワーク
 - ・国際環境協力(アジア)

「四日市学」の意義

四日市学の目的

(2001年4月～) 四日市公害を負の遺産から正の遺産としてとらえなおし、自治体を含む地域・住民と協働できる認識共同体を形成し、未来の環境快適都市づくりへ寄与する。

4つのアプローチ

人間学 命の尊厳

- ★公害問題の原点は何か？
- ★公害被害者の生存権を守る手段
- ★環境破壊がもたらした人間の価値判断の喪失

未来学 持続可能な社会システム

★公害都市から未来への環境快適都市への再生について

環境教育学 問題解決型・体験型教育

★公害を体験していない学生に四日市公害の過去・現在・未来の環境快適都市をめざす人材育成

アジア学 国際環境協力

★東アジアや東南アジアの国際環境協力のあり方を探る

2004年4月～「四日市公害から学ぶ四日市学」
(三重大学 共通教育)

人間と自然との関係とは何かという
人間としての根本的な命題を考える。



「世界一の環境先進大学三重大学」

5学部；人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部

6大学院；人文社会科学研究科、教育学研究科、医学系研究科、工学研究科、生物資源学研究科、地域イノベーション学研究科

- ・ISO14001認証取得(2007.11.19)
- ・平成20年度容器包装3R推進環境大臣賞優秀賞受賞(2009.1.15)
- ・第8回環境経営大賞環境経営パール大賞受賞(2010.6.1)
- ・第2回エコ大学ランキング総合・国立大学部門第1位(2010.11.4)
- ・環境省・東洋経済新報社主催；環境コミュニケーション大賞
(三重大学環境報告書2006, 2008, 2009, 2010)





三重大大学のISO14001認証取得プロセス



環境ISO推進室・学生委員会 発足

2006年2月21日

環境ISOキックオフ

2006年9月

内部監査員養成

2007年2月21日

マニュアル・様式・手順書作成

三重大学上浜キャンパス 環境マネジメント

(EMS)

環境マネジメントシステム運用開始

2007年10月24日・25日

生物資源学部、人文学部、施設部・学務部、学術情報部、財務部、学内共同教育研究施設等、環境ISO学生委員会

2007年9月25日・26日

審査

工学部、医学部、教育学部、総務部



2007年11月19日

ISO14001認証取得

2007年12月11日

ISO14001認証授与式



三重大学環境ISO認証取得キックオフ大会

1.総合大学として全学一括ISO14001認証取得(日本初！)
2.学生主導の環境ISO活動



ISO14001認証授与式



TOPICS2

世界一の「環境先進大学」三重大大学の

環境ISO活動(3R活動)

3R活動

(Reduce / Reuse / Recycle)

1. レジ袋ゼロプロジェクト
2. 放置自転車・家電製品の再利用プロジェクト
3. 古紙再生利用のトイレトペーパー化・リサイクルシステムプロジェクト

容器包装3R推進環境大臣賞優秀賞！(2009.1.15)

平成20年度 容器包装3R推進環境大臣賞「優秀賞」を受賞

平成19年度から本学が取り組んでいる3R活動について、環境省が容器包装廃棄物の3R推進に資する活動の奨励・普及を図るために設けている「容器包装3R推進環境大臣賞」地域の連携協働部門優秀賞を受賞しました。

受賞の理由は、大学の環境方針と環境目的を実現するため、環境ISO学生委員会が中心となり3R活動を実践。様々な取組を通じて、若年層が身近に環境配慮行動を実践する契機となっている点が高く評価されました。



Reduce

ストップ！地球温暖化

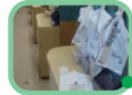
レジ袋ゼロ

エコバッグの配布、大学生協でのレジ袋の有料化を実施しました。その結果、約20万枚のレジ袋が削減でき、これにより石油約3,500リットル、CO₂約9トンの削減になりました。また、全国で初めてレジ袋を置かないコンビニ「ミニストップ三重大学店」が平成21年10月1日にオープンし、レジ袋ゼロを達成しました。

エコバッグの展示
(平成19年10月)



エコバッグのデザイン募集・投票
(平成19年5月)



エコバッグ配布
(平成19年12月)



キャンペーン開始
(平成19年11月)

レジ袋「0」達成
(平成21年10月1日)

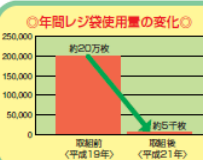


ミニストップ三重大学店



レジ袋は有料

大学生協でのレジ袋有料化
(平成20年1月1日)



年間約20万枚のレジ袋削減
CO₂約9トン削減

Reuse

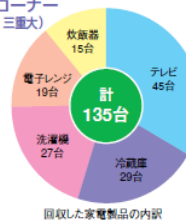
循環型社会

家電製品のリユースプラザ

卒業生の不用となった家電製品5品目(テレビ・冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ・炊飯器)を回収し、新入生や留学生に譲渡しました。



家電製品のリユースコーナー
(まわれ!! リユースプラザ in 三重大)



放置自転車の再利用

自転車は、三重大学では非常に便利で大勢が使う移動手段です。しかし、毎年、放置自転車の問題が発生しています。その自転車は、学務部による学内共用自転車、環境ISO学生委員会による無償譲渡という形で再利用されました。



放置自転車かどうかを確認するためのタグの貼り付け



放置自転車の修理



学内専用リユース自転車

新しく生まれ変わった自転車を譲り渡しています。
(希望者が多く抽選になりました。)



取組後

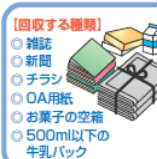


取組前

Recycle

古紙の再生利用

皆さんが古紙回収コンテナに投入した古紙は、三重大学のトイレトペーパーの一部に生まれ変わります。身近なリサイクルを実践しましょう!



【回収する種類】
●雑誌
●新聞
●チラシ
●OA用紙
●お菓子の空箱
●500ml以下の牛乳パック

古紙回収コンテナへ!
※新聞紙、チラシはしっかり束ねて!
※雑誌、OA用紙はそのまま!
※お菓子の空箱はつぶして!



エコステーションでは、
●古紙 ●牛乳パック
●電池 ●割り箸
●インクカートリッジ
●ペットボトルキャップ
以上6種類のゴミを回収し、リサイクルしています。



三重大学エコステーション

三重大学の
トイレトペーパーの
約20%を賄える



三重大オリジナルの
トイレトペーパーに!

大学生協でのレジ袋有料化(2008.1.1)による99%削減
日本初! レジ袋ゼロコンビニ ミニストップ三重大学店(2009.10.1)

文部科学省教育GP 三重大ブランドの環境人材養成プログラム



三重大大学が目指す三重大ブランドの環境人材



三重大大学で学んだ学生は、
社会（企業・行政など）に認められる環境人材

三重大大学から
認定される
学内環境
資格

- 内部環境監査資格
- 環境教育プログラマー
- 環境自己評価ソフト／プログラム開発関係資格
- 環境PDCAシステム管理者
- 環境マネジメント資格講座講師
- 環境報告書作成実務資格 ……など

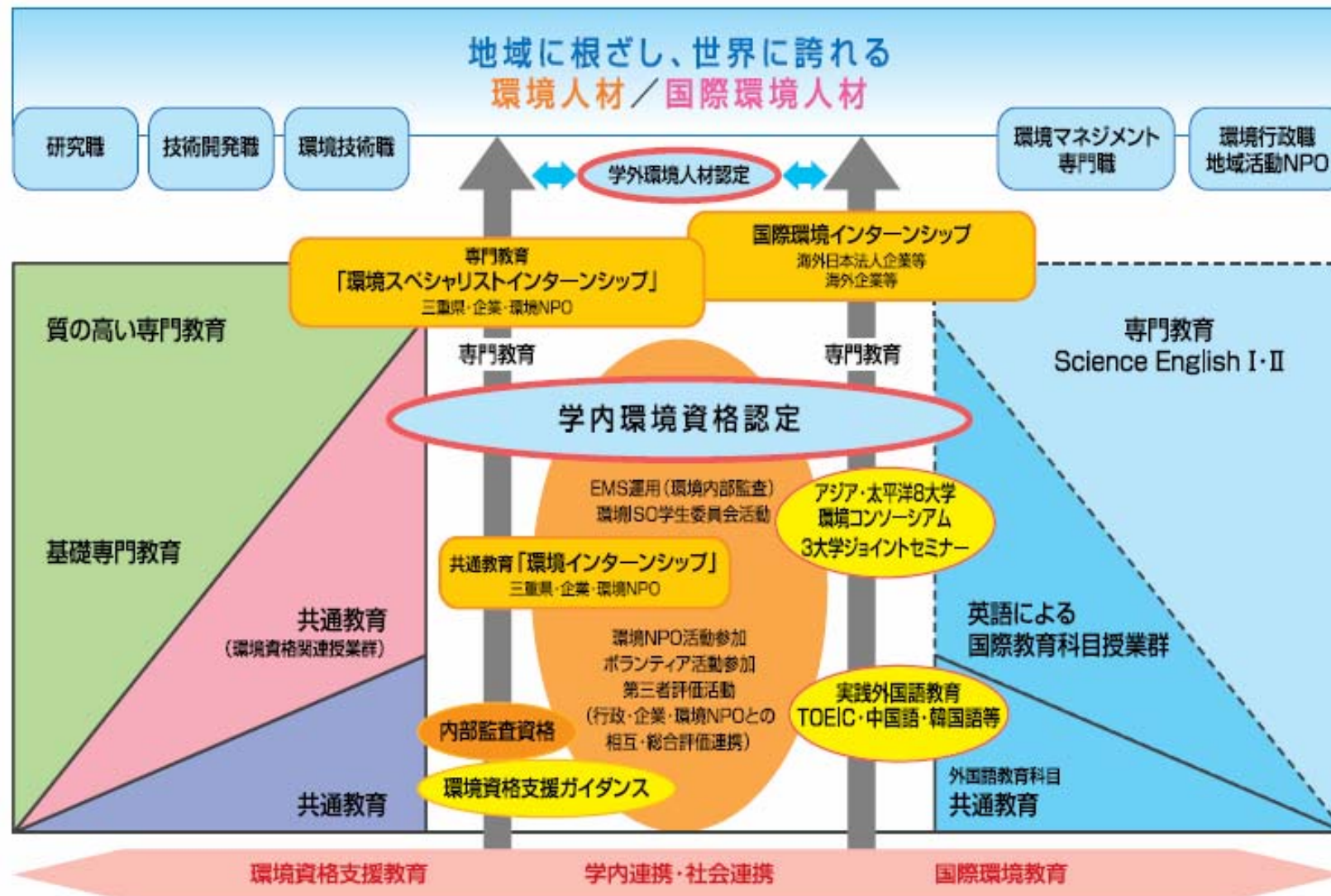
社会のニーズに対応した
資格認定までのプログラム

- 各種環境インターンシップによる実践
- 質の高い環境関連専門教育
- 海外大学と連携した
e-Learningプログラムの開発と実践
……など

これらの資格を持った学生・卒業生を受け入れる企業・行政・NPOに対し、
組織の環境管理・運営に寄与できる人材（三重大ブランドの環境人材）の輩出を目指す

三重大ブランドの環境人材

三重（地域）に根ざし、世界に誇れる環境人材／国際環境人材



環境資格支援教育 / 国際環境教育 プログラムの取組

11～12単位取得者には学長による

「環境資格支援教育プログラム修了証」が授与される

三重大ブランドの環境人材養成プログラム

(1) 必修科目 2単位

①「環境資格支援ガイダンス」(共通教育主題G)

2単位

(2) 選択必修科目 1～2単位

①「環境インターンシップ」(共通教育主題G)

2単位

②学部が開講する「インターンシップ」(専門教育)

1～2単位

③「国際環境インターンシップ」(共通教育主題G)

2単位

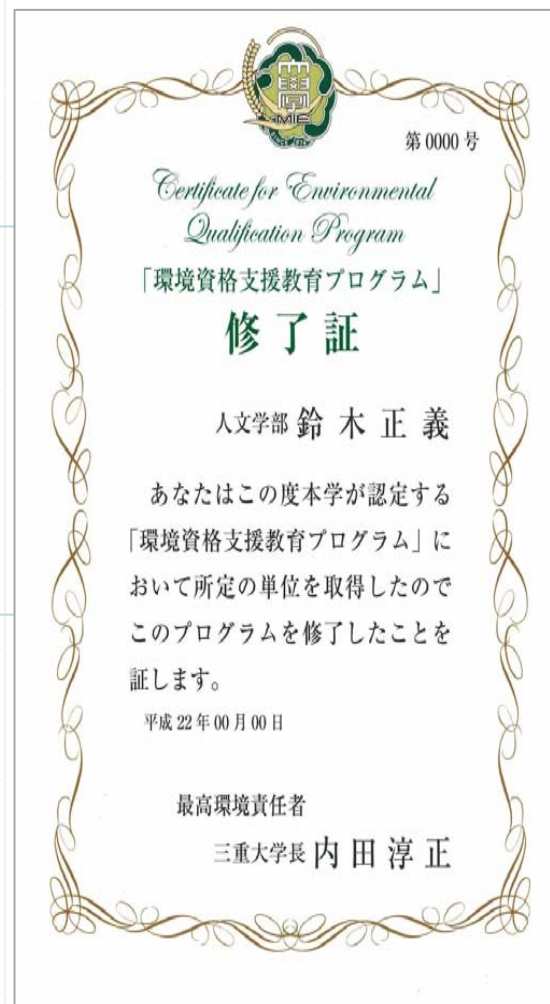
(環境ISO推進室が認める内外の行政・企業・団体・国連機関でのインターンシップ)

(3) 選択科目 8単位

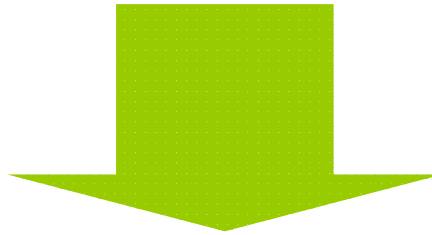
①共通教育主題Gの通常科目・総合科目の1科目、または共通教育主題

11～12単位取得者には学長による

「環境資格支援教育プログラム修了証」が授与される



「環境資格支援教育プログラム」(H19年度より実施) 地域に根ざし、世界に誇れる環境人財の養成



1. 平成21年度の「環境資格支援教育プログラム」関連科目：
受講生数2,659名(全学部生数(6,200名)の約42.9%)、
単位取得者2,123名(全学部生数の約34.2%)
2. 平成21年度の「環境資格支援教育プログラム」修了者:16名
3. 平成21年度の「環境内部監査員養成セミナー」開講:学生環境内部監査員
登録者数77名
4. 平成21年度の「環境インターンシップ」の実施:44名
企業(シャープ株式会社、中部電力株式会社など)、行政(三重県)、団体(商
工会議所など)、NPO法人(三重県地球温暖化防止活動推進センターなど)
5. 平成21年度の「国際環境インターンシップ」の実施:4名
国連気候変動枠組条約第15回締約国会議(COP15;コペンハーゲン会議)
6. 平成22年度の「国際環境インターンシップ」の実施:38名
国連生物多様性条約第10回締約国会議(COP10;愛知・名古屋会議)

アジア・太平洋大学環境コンソーシアム

アジア地域を対象とした
国際的な環境教育

世界を対象とした
国際的な環境教育

認識共同体

環境コンソーシアム

アジア・太平洋大学

地域に根ざし、世界に誇れる
環境人材養成の環境教育



9カ国33大学/事務局;三重大学

ロシア・モンゴル・中国・韓国・日本・タイ・インドネシア・オーストラリア・アメリカ

1. 三重大学ブース設置

2010. 10. 11 (月) ~ 29 (金) COP10会場 (白鳥公園)

2. アジア・太平洋子ども&ユース伊勢湾洋上国際環境学習

2010. 10. 14 (木) ~ 15 (金) 勢水丸・COP10会場・

亀山里山公園 (みちくさ)・関宿・シャープ株式会社

3. アジア・太平洋大学環境コンソーシアム1周年記念 国際環境教育シンポジウム

2010. 10. 16 (土) 三重大学講堂大ホール

4. 生物多様性エクスカーション

2010. 10. 17 (日) 鳥羽水族館・御木本真珠島・海の博物館

5. アジア・太平洋国際環境フォーラム

2010. 10. 18 (月) COP10会場 (名古屋学院大学)



▲亀山里山公園(みちくさ)



▲勢水丸

主催: 三重大学

共催: (財) 三重県環境保全事業団 (三重県地球温暖化防止活動推進センター)

**後援: 環境省中部地方環境事務所・(社) 日本ユネスコ協会連盟・三重県・亀山市・
かめやま環境市民大学・鈴鹿市・鈴鹿市教育委員会・津市・四日市市・
シャープ株式会社・中部電力株式会社・鳥羽水族館・御木本真珠島・
海の博物館・三重大学人文学部総合環境研究センター・三重テレビ・NHK・
ZTV・朝日新聞・伊勢新聞・中日新聞・毎日新聞・読売新聞**

連携協力: 生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会

<お問い合わせ> COP10 in 三重実行委員会/TEL 059-231-9823

<http://www.iso.mie-u.ac.jp/COP10/index.html>



三重大学練習船「勢水丸」による生物多様性伊勢湾洋上環境学習(2010.10.14-15)



亀山里山公園(みちくさ)での生物多様性里山環境学習(2010.10.14-15)

COP10 in 三重
アジア・太平洋ユース生物多様性宣言

この度COP10 in 三重に参加した私たち、アジア・太平洋地域のユースは、今回の伊勢湾岸上陸し、アジア・太平洋、さらに世界の生物多様性の保全及び生物資源の持続可能な利用のためにこの私たちは、これまで山、川、大地、海、自然とそこに生ずるさまざまな生物からたくさんの恵みを受け、人間の手による外来種の移入、気候変動に伴う温暖化、自然の破壊等によって、それら生物多様性は生態系の一部であり全ての命が互に関係しあっている、ということを再認識する。私たちは地球に全ての命が共存できる世界を創るために、具体的な計画を作り行動しなければならぬ。従って私たちは、地球上の全ての命が調和する持続可能な世界を創るために、次のように宣言します。

- 1 私たちは生物多様性を守り、これを豊かにする為に知識を身につけ、行動します。現状の問題を把握しその解決にむけて、生物多様性の正しい知識を身につけます。自然と多く触れ合い、現場を知り、自然の大切さを実感し責任ある行動をします。
- 2 私たちは今ある生態系がこれ以上破壊されないように努めます。今回の経験から得た知識を地域の人々と共有し、地域の生物多様性の保全活動を展開します。生物多様性に配慮した商品を購入していくとともに、日常生活の水、エネルギー、生物等。
- 3 私たちはグローバルな視点を持ち、アジア・太平洋ユースネットワークを強化し、問題解決のアジア・太平洋ユースネットワークを構築し、意見交換を継続的にを行い、さらに世界の生物多様性に対する意識を向上させていく為に持続可能な発展教育（ESD）の強化を要請します。
- 4 未来世代へのビジョンを持ち、知識を絞り、次世代へ継承された生物多様性を残すように努めます。生物多様性に関する意識を向上させていく為に持続可能な発展教育（ESD）の強化を要請します。将来、私たちは各国のリーダーとして、連続的な生物多様性の大切さを自覚し、未来の世代に引き継ぐ責任を担います。

私たちは遺伝資源から生じる各国の利益を平等にし、平和で豊かな世界を目指します。そして人間と人間が共存し、多様な種があふれる世界を2050年までに実現します。命あふれる地球を未来の世代に引き継ぐことが、今を生きる我々の使命です。そこで2050年に向けて、今後私たちが環境人材として、情報を発信し、協力し、活動を展開することによって、生物多様性の減少をくい止め、持続可能な世界を創るために、全人類が自然と共生し幸せな生活が出来るようになります。共に努力を惜しまないことをここに誓います。

COP10 in Mie
Asia and the Pacific Ocean youth biodiversity statement

We are the youth of Asia and Pacific region. This time, we participated in COP10 IN MIE and we went to the Ise Bay and satoyama in Kameyama. Using this experience, we made statement for the sustainable use of the biological resources in Asia, Pacific and even the world.

We have been received a lot of blessing from mountains, rivers, ground sea and nature but, today, biodiversity are being lost by some immigrants by human, global warming associated with climate change and destruction of nature. It is necessary for us to know again that we are a part of the ecosystem and all lives are related each other. Now we should make the specific plan to create the world where all lives in the earth can live together over the countries and act. Therefore, we declare as follows to create the sustainable world where all lives on the earth harmonize.

1. We put the right knowledge to the right action for biodiversity conservation.
 - We grasp a problem of the current state and put on right knowledge of biodiversity for the solution.
 - We try to have contact with nature a lot, to realize the importance of nature, and to act responsibly.
2. We try ecosystem not to be destroyed any further.
 - We share experience with the people around us when we come back, and we start to preserve regional biodiversity.
 - We try to buy the biodiversity conscious products, and save the water, energy and waste of natural resource in daily life.
3. We will have a global view point, and make the strong Asia Pacific Youth network and then, we must cooperate with them toward a resolution of the issues.
 - We should have a lively exchange of views (in Asia Pacific Youth network) to promote biodiversity all over that world.
 - We make request each country to access to genetic resources and Benefit Sharing.
4. We will have the vision to future generation and think over, and what's more, we try to keep blessed biodiversity to the next generation.
 - We require strengthened Education for Sustainable Development (ESD) to improve the consciousness about biodiversity.
 - In the future, we will recognize the importance of continuous biodiversity and maintain this for future generation as a leader in each country.

We aim peace and rich world that profit in each country from genetic resource is fare. We will achieve the world where various species are and human coexist nature by 2050. Our mission is taking over the Earth that having abundant life to generation in the future.

We hang 2050 vision and we send information, cooperate and act with having an environmental leadership to stop decrease in biodiversity.

The whole human family coexists with nature and spends time in happy life. To accomplish this mission, we declare here to make effort.

October 16, 2010
Asia and the Pacific Ocean youth

パートナーシップ事業
COP10 AICHI-NAGOYA
Life Harmony. Into the Future
COP10 AICHI-NAGOYA 2010

2010/10/18 11:56

「COP10 in 三重」 アジア・太平洋ユース生物多様性環境宣言文採択 2010.10.18